

令和2年春期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは昭和61年から県内3植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、平成20年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は本年春期の取引動向の概要について紹介します。

1 全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－1〕

近年の全体取引量は、平成22年以降減少傾向が続き、平成28・29年は増加に転じたものの、翌年から再び減少傾向となり、今期も減少しました。

全体では前年同期（約14.0万本）より約1.5万本減の約12.5万本で、前年同期比は89%となり、用途別では、一般植木は前年同期比93%、株・玉物は78%、生垣用樹は110%で、前年に続き株・玉物が大きく減少しました。

2 用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－1、図－2〕

(1) 一般植木（12品目）

一般植木の取引量は約3.1万本で、前年同期（3.4万本）より約0.2万本減少しました。平成10年代前半は10万本を超える取引量でしたが、20年代後半には4万本程度まで減少し、今年は3万本をわずかに上回る取引量となりました。

取引量の多い品目は、自然形ではカエデ類やカシ類、キンモクセイ、ツバキなどで、この中ではカエデ類と、昨年大きく減少したツバキ、キンモクセイはわずかに増加しましたが、昨年倍増したカシ類が半減しました。仕立物ではイヌツゲ、イヌマキは横ばいでしたが、クロマツが増加して、全体では前年を上回りました。

(2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約5.7万本で、前年同期（7.3万本）より約1.6万本減少し、直近の3年間で半減以下となりました。

株・玉物は、サツキ、ツツジ類とイヌツゲで大半を占めますが、いずれも大きく減少しました。

(3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約3.7万本で、前年同期（3.4万本）より約0.3万本増加しました。平成10年をピークに減少が続き、昨年はピーク時の15%まで減少しましたが、今年は増加に転じました。

取引量の多い品目は、サザンカとイヌマキで、両種で生垣用樹の約86%を占め、今年はイヌマキは減少しましたが、サザンカが大きく増加して全体量を押し上げました。

3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

平成20年から、近年市場でよく見られる樹種を、調査対象として追加しました（一般植木ではハナミズキ、シマトネリコなど7種、株・玉物ではドウダンツツジなど3種）。

追加樹種を含めた取引上位10品目に変化はなく、サツキは大きく減少したにもかかわらず1位を保ち、大きく増加したサザンカやシマトネリコが順位を上げました。逆にオタフクナンテンやツツジ類は大きく減少して順位を下げました。

調査市場

農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）
矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）
福地植木生産組合（西尾市齊藤町）

図-1 春期取引量の推移（単位：万本）

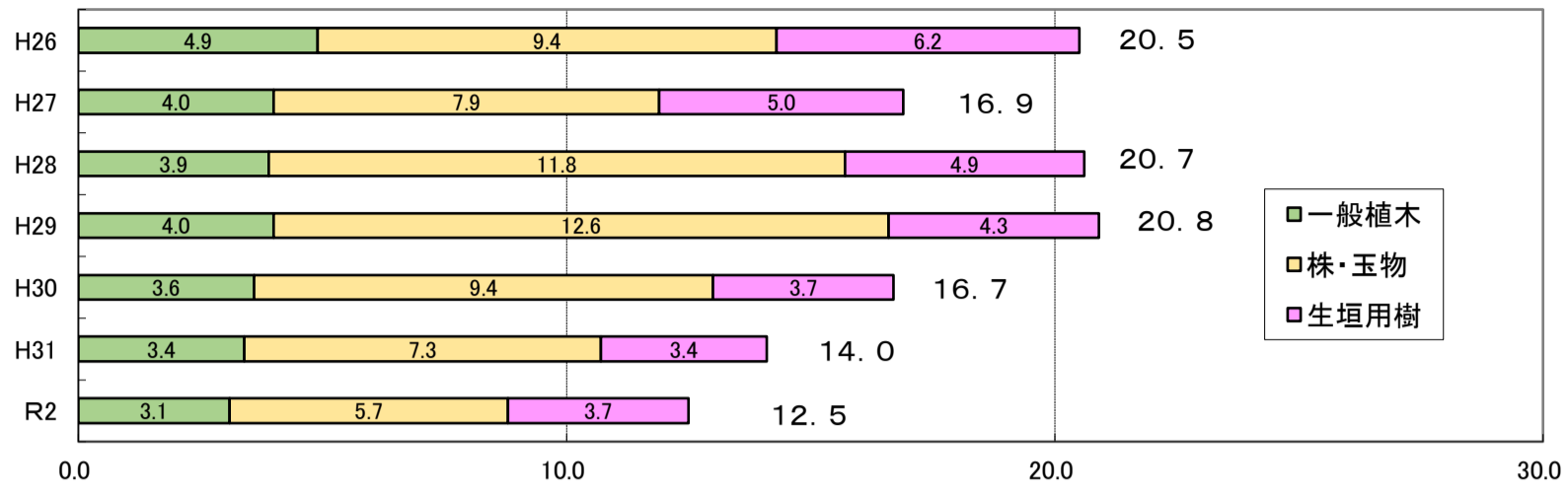


図-2 春期取引量の区別構成比（%）

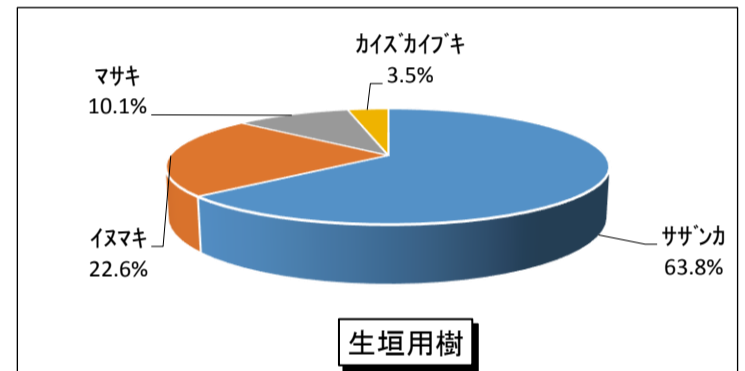
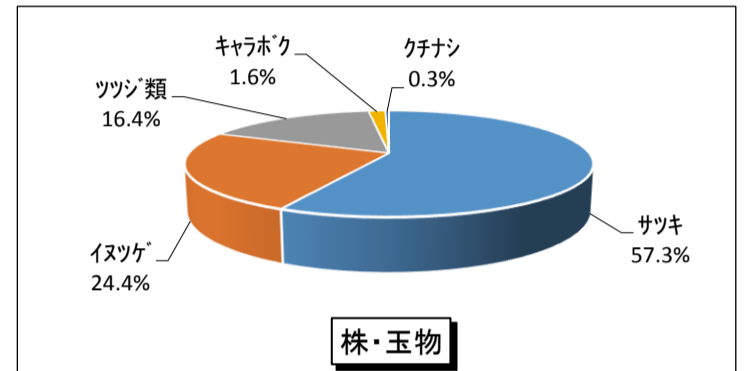
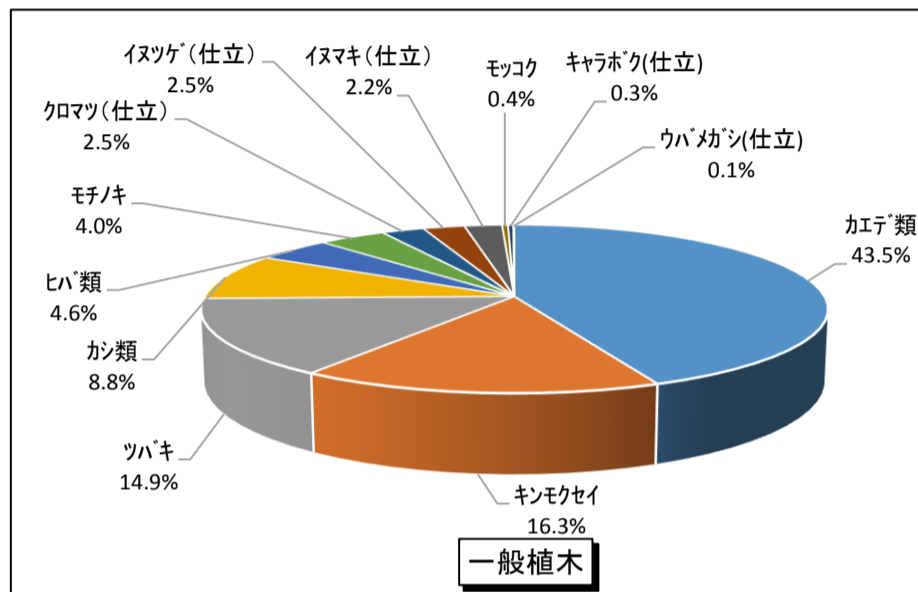


図-3 春期取引量(追加樹種含む)の区別構成比（%）

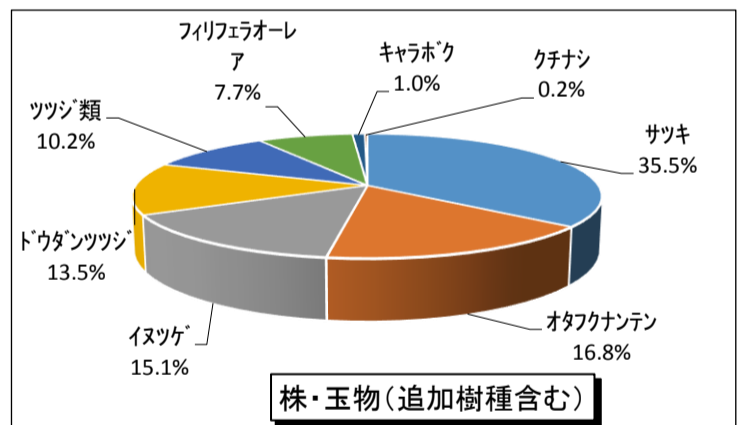
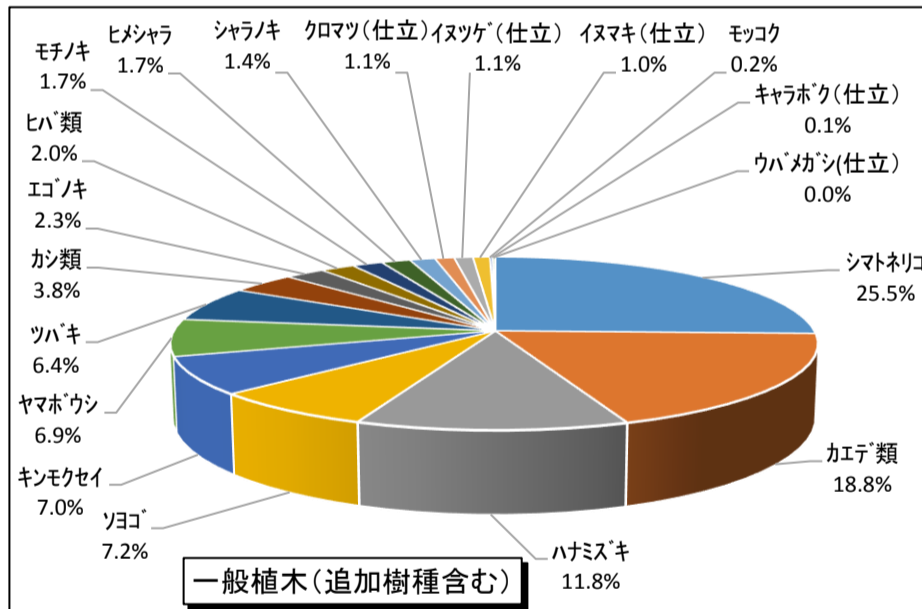


表-1 春期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	平成30年			平成31年			令和2年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	...	サツキ	株	↘	サツキ	株	↘
2	ツツジ類	株	↓	オタフクナンテン	株	↗	サザンカ	生	↑
3	サザンカ	生	...	イヌツゲ	株	...	シマトネリコ	一	↗
4	イヌツゲ	株	↘	サザンカ	生	...	オタフクナンテン	株	↘
5	イヌマキ	生	↘	ツツジ類	株	...	イヌツゲ	株	...
6	オタフクナンテン	株	...	シマトネリコ	一	↑	カエデ類	一	...
7	ハナミズキ	一	...	ドウダンツツジ	株	↑	ドウダンツツジ	株	...
8	カエデ類	一	↘	カエデ類	一	...	ツツジ類	株	↘
9	シマトネリコ	一	...	イヌマキ	生	...	ハナミズキ	一	...
10	ツバキ	一	...	ハナミズキ	一	...	イヌマキ	生	↘

・前期比単位 ...: ±20%未満 ↗: +20%以上40%未満 ↘: -20%以上40%未満
 ↑: +40%以上 ↓: -40%以上 -: データなし
 ・区分 一: 一般植木 株: 株・玉物 生: 生垣用樹